

青梅上成木ふれあいの森

活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 1608

1. 実施日 平成 28 年 8 月 7 日

2. 観察ルート 里仁会館～常盤橋～大滝～サエズリの谷～サエズリの道～ワープ新道～ミズナラの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道入り口）～里仁会館

A. 里仁会館～常盤橋（都道 202 号沿い）

- ・白糸の滝の少し上流、左手山側斜面に橙色の花がいくつか咲いているのが見られ、花の特徴からナデシコ科のフシグロセンノウ（節黒仙翁）かと思われたが、フシグロセンノウは節部分が黒いのが特徴なのに、ほとんど黒く見えないので同じナデシコ科のマツモトセンノウ（松本仙翁）かも？・・・
- ・名前は不明だが殻の表面に細かい毛が生えている変わったカタツムリを見かける。
- ・今年も都道 202 号沿いの民家の畑の端にヒガンバナ科のキツネノカミソリ（狐の剃刀）あるいはオオキツネノカミソリ（大狐の剃刀）と思われる朱色の花が群生状態で咲いていたが、花の盛期が少し過ぎておりどちらかの同定は難しい。



マツモトセンノウあるいは
フシグロセンノウ



名前不詳のカタツムリ



キツネノカミソリあるいは
オオキツネノカミソリ

- ・ユリ科のコバギボウシ、オオバギボウシなど春の草花やドクダミ（ドクダミ科）、ホタルブクロ（キキョウ科）など初夏の草花の咲き残りがまだ所々で見られる。
- ・コマツナギ（マメ科）、ミズホオズキ（ゴマノハグサ科）、ツユクサ（ツユクサ科）、ダイコンソウ（バラ科）、ハエドクソウ（ハエドクソウ科）、シソ科のアキノタムラソウ、イヌトウバナなど夏の草花が多く見られる。
- ・ヤマユリ（ユリ科）の花はそろそろ終わり。昨年より増えているように思われる。
- ・ヨウシュヤマゴボウ（ヤマゴボウ科）は実が段々色づきはじめ、夏の終わりから秋にかけて見られるヘクソカズラ（アカネ科）、キツネノマゴ科のキツネノマゴ、ハグロソウやヌスビトハギ（マメ科）が所々で咲きはじめる。
- ・ヤマホトトギス（ユリ科）が所々で蕾を付けており、間もなく開花か。
- ・今までは常盤林道沿いや成木川上流域の支沢で多く見られたイワタバコ（イワタバコ科）が今回、常盤橋の少し下流の都道 202 号沿いの岩肌にも数は少ないがいくつか咲いているのが確認された。

- ・常盤林道上流域で多く見られるモミジガサ（キク科）が都道 202 号沿いでも数は少ないがこの時期地味な花を咲かせている。
- ・常盤林道上流域の成木川側の灌木に蔓を絡ませたボタンヅル（キンポウゲ科）がたくさんの蕾を付けており、間もなく開花と思われる。

B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- ・常盤橋の少し先、左手岩肌のイワタバコは周囲にシダ類や雑草が繁茂しており、植生環境はあまりよくないがいくつかの花が見られ、今回ある範囲内の花、蕾、花後の状態などすべてで 45 株ほどをカウント。
- ・常盤林道には山側からの排水用の排水溝が連続して設けられているが、常盤橋の少し先の排水溝の中にイワタバコの花が咲いているのが見られた。
こんなところにも！と驚かされたが、昨年岩肌からこぼれ落ちた花後の種子が大雨などにより流されることがなく順調に生育し開花することができたと思われる。
- ・常盤林道沿いばかりでなく、活動エリア内で見られるサワギク（キク科）の咲き残りがまだ所々で見られるが、多くはこの季節白い毛玉を付けている。
- ・特徴的な雄花を付けたイタドリ（タデ科）が常盤林道沿いばかりでなく、都道 202 号沿い各所でも多く見られる。
- ・常盤橋の少し先、養魚場近くでキツリフネ（ツリフネソウ科）の咲き残りが見られる。
- ・シュウカイドウ（シュウカイドウ科）が所々で咲きはじめたが年々数が減っているように思われる。
- ・ナス科のヒヨドリジョウゴあるいはヤマホロシと思われる蔓を伸ばす前の若い草本を見つける。
- ・アジサイの道から涸沢出合い（大滝作業道口）に多く見られるマツカゼソウ（ミカン科）が常盤林道沿いでも多く見られ、ここ数年減少気味だったがまた増えているように思われる。
- ・この時期、葉腋に小さなムカゴをいくつか付け、茎の先端に特徴的な雌花を咲かせたムカゴイラクサ（イラクサ科）が所々で見られる。



常盤林道の排水溝の中に咲いた
イワタバコの花



ヒヨドリジョウゴまたはヤマホロシ
と思われる若い草本



ムカゴイラクサ

C. 大滝～サエズリの谷（イラクサの道）

- ・イラクサの道の入口近く、右手山側の岩肌のモニタリングポイント①のイワタバコは昨年 7 月 25 日の観察で 35 株ほどをカウントし、12 ヶの花が咲いているのが見られたが、今回は花、蕾、花後の状態などすべてで 18 株ほどをカウント。
昨年に比べかなり減少しており、イラクサの道の反対側の左手沢沿いをはじめ、大滝周辺のイワタバコも今年は昨年に比べ全体的に少ないように思われる。

- ・モニタリングポイント①のイワタバコの少し先、右手山側の斜面の昨年のモニタリングポイント①のツルリンドウ（リンドウ科）は更に枝分かれして生育し、いくつかの蕾ができているのを確認。
- ・イラクサの道の沢沿いには春から初夏に開花するクワガタソウ（ゴマノハグサ科）が所々で見られる。
- ・イラクサの道沢沿いの左手山側のイワタバコのモニタリングポイント②より少し手前の反対側、右手沢側の大きな岩肌にも前回6月の観察でたくさんのイワタバコの葉が見られ、開花時にはたくさんの花が咲くと期待されたが、今回は花が2ヶだけ見られただけでほとんどがまだ葉の状態だった。
近くで見ることができず蕾の有無も確認できないが、地域により開花時期がずれることもあり、この辺りのイワタバコの開花はこれからの可能性も？・・・
- ・モニタリングポイント②のイワタバコは昨年7月25日の観察で10株ほどをカウントし、6ヶの花が咲いているのが見られたが、今回は花、蕾、花後の状態などすべてで16株ほどをカウント。
昨年より少し増えているが、この辺りの岩肌もシダ類や雑草が繁茂しており植生環境はあまりよくない。
- ・イラクサの道の上流部の三角岩やその周辺の岩肌は乾燥化が特にひどく、今後もイワタバコは見られそうもない。
- ・毎年サエズリ広場入口周辺には毎年いくつかのマルミノヤマゴボウ（ヤマゴボウ科）が見られ、この時期にはもう赤い実を付けている筈だが、今回は皆虫に喰われたような痕跡があり、花後の実がまったく見られなかった。
マルミノヤマゴボウは全草に毒性が強く、鹿などの動物や鳥が食べるとは考えにくいですが、食べても害のないある種の虫に喰われたのではないかと思われる。
- ・昨年2株のうちの1株が開花したものの赤い実を見ることができず、前回6月の観察で2株とも蕾を付けていたサエズリ広場のトチバニンジン（ウコギ科）は、今回は1株だけが花後の赤い実を付けているのを見ることができた。
- ・リンドウ坂やアジサイの道で最近数が増えているカシワバハグマ（キク科）が、今回はサエズリ広場周辺にも1株だけが生えているのが見られた。



花後の実が熟す前に虫に喰われた
サエズリ広場のマルミノヤマゴボウ



赤い実を付けたサエズリ広場の
トチバニンジン



サエズリの谷で見つけた
カシワバハグマ

D. サエズリの谷～看板エリア（サエズリの道、ワープ新道、ミズナラの道、スミレの道）

- ・サエズリの道の支沢出合い付近の左手岩場のモニタリングポイント③のイワタバコは昨年7月25日の観察で24株ほどをカウントし、9ヶの花が咲いているのが見られたが、今回は花、蕾、花後の状態などすべてで13株ほどをカウント。昨年に比べかなり少ない。
- ・都道202号沿いや常盤林道沿いの所々で見られるオトギリソウ（オトギリソウ科）が今回サエズリの道沿いの斜面にもいくつか生えているのが見られた。
- ・サエズリの谷の所々でタニタデ（アカネ科）の花が見られるが、最近数は減っているように思われる。

- ・前回6月の観察でワープ新道の途中で見つけ、枝切れで簡単に囲いをしておいたツルリンドウは今回その場所を探すことができなかつた。倒木などの滑落に巻き込まれ下方に移動してしまったのか?・・・
- ・前回6月の観察でこのツルリンドウの少し先に同じく新たに見つけ、枝切れで簡単に囲いして名札を付けておいたハンショウヅル(キンポウゲ科)は今回周囲に篠竹で囲いをし、道沿いに不規則に伸びていた蔓を近くの灌木に絡ませる。
- ・昨年センブリが生えていたスミレの道沿いの山側斜面上部のミズナラエリアの斜面にも2年目のセンブリの若い株が生えており、今後どの程度の株が順調に生育して花を咲かせるか継続的に観察することに。
- ・スミレの道沿いのセンブリ(リンドウ科)は、前回6月の観察では2年目の株はまったく確認できなかったが、昨年篠竹で囲った各株の周辺に今年発芽したばかりのリンドウ科特有の形の小さな1年目の新芽がたくさん生えており、来年この新芽のいくつくらいが無事に生育して2年目の株になるか観察することに。
- ・ミズナラエリア内の斜面で白い変わったキノコを見つかる。シロオオハラタケ(ハラタケ科)?という名のキノコと思われ、毒キノコではないが美味でなく食用にはしないらしい。



ワープ新道の途中のハンショウヅル



センブリの発芽したばかりの新芽



シロオオハラダケ?というキノコ

E. 看板エリア～涸沢出合い(リンドウ坂、アジサイの道)

- ・東京都環境保全看板近く、リンドウ坂のモニタリングポイント②のツルリンドウは今回も前回6月の観察と同様28株をカウント。順調に生育しており、蕾がいくつか見られ間もなく開花か。
 - ・東京都環境保全地域看板の少し下、左手のイチヤクソウ(イチヤクソウ科)は今回も前回6月の観察と同様12株をカウント。既に花は終わり4株が花後の結実前の状態。
 - ・リンドウ坂のベンチ近く、モニタリングポイント③のツルリンドウは今回も前回6月の観察と同様8株をカウント。ここでも順調に生育しており、蕾がいくつか見られ間もなく開花か。
 - ・昨年モニタリングポイント③のツルリンドウの少し下の斜面で見つけ、篠竹で囲いをして名札を付けておいたオクモミジハグマ(キク科)は、今年の株は枯れて無くなっているが、今年も同じ場所に1株生えているのが見られた。
 - ・今年もリンドウ坂からアジサイの道にかけてキク科のカシワバハグマ、オクモミジハグマの新芽が所々で見られ、年々数が増えているように思われる。
 - ・アジサイの道にはキヌタソウ(アカネ科)の白い小さな花がたくさん咲いているのが見られる。
 - ・アジサイの道の林道側斜面のヤマアジサイ(ユキノシタ科)の花はほとんどが終わりで、代わりに同じユキノシタ科のタマアジサイがたくさん咲いている。
- アジサイの道ばかりでなく常盤林道沿いや活動エリア内の各所で見られるが、今年はこの場所でも例年に比べ花の数が少なく開花状態もあまり良くないように思われる。

F. 涸沢出合い～大滝（常盤林道沿い）

- 涸沢出合い（大滝作業道入り口）周辺のウバユリ（ユリ科）は蕾が大きく膨らんできた。都道 202 号沿いや常盤林道をはじめ活動エリア内の所々で見られるが涸沢出合いに特に多く見られる。
- 涸沢出合い（大滝作業道入り口）にはマツカゼソウ（ミカン科）の白い小さな花がたくさん咲き始めている。マツカゼソウも涸沢出合いばかりでなく活動エリア内の所々各所でも多く見られる。
- 涸沢出合いから大滝方面に戻る途中、常盤林道成木川側のイワタバコは、前回 6 月にはたくさんの葉が見られ、たくさんの開花が期待されていたが、岩肌のシダ類や雑草の繁茂がひどく植生環境があまりよくないせいとその後の生育が悪く、期待はずれの開花状態だった。
ある任意の範囲で今回花、蕾、花後の状態などすべてで 62 株ほどをカウントし、以後この場所をイワタバコのモニタリングポイント⑤とし継続的に観察することに。
- この場所から少し下流、涸沢出合い（大滝作業道入り口）～大滝間の駐車スペース近くのモニタリングポイント④のイワタバコは、昨年 7 月 25 日の観察では株数が多いので花の数だけをカウントしたところ 76 ヶほどを数えたが、今回同じ範囲で花、蕾、花後の状態などすべてをカウントしたところ 25 株ほどしかなかった。
ここは昨年までは林道沿いでイワタバコの花が鑑賞できる絶好の場所だったが、年々岩肌の乾燥化や崩落が進み植生環境の悪化により数が減っていると思われる。
- 涸沢出合い（大滝作業道入り口）～大滝間の成木川沿いの大きな岩の上のミツバベンケイソウ（ベンケイソウ科）は今年もいくつか生えているのが見られ、そろそろ蕾を付け始めている。

3. 総括

- 今年は春先から草花の開花が例年に比べ全体的に早いように思われたが、その後の気温急変などの異常気象や梅雨明けの遅れもあり、そのため開花が遅れたり、開花状態が悪いものも多く見られ、年々進んでいる地球温暖化により植生環境に少なからず影響が出ているのではないかとと思われる。
- 常盤林道沿いをはじめ、活動エリアの多くの場所でイワタバコは見られ、現在、安易に近付くことができるポイント 5 ヶ所についてモニタリングをしているが、今年ほどのポイントについても昨年に比べ自生株数、開花数とも少なく、開花状態も悪いように感じられる。
- 現在、3 ヶ所でモニタリングをしているツルリンドウはいずれも昨年に引き続き順調に生育しており、今年も間もなくいくつか開花が見込まれ、秋には赤い実をたくさん付けると思われる。
- 昨年はスマレの道沿いのセンブリについてのみモニタリングをしてきたが、昨年秋以降にスマレの道沿いの山側斜面上部のミズナラエリアの斜面にもセンブリが見られたので、スマレの道沿いをセンブリのモニタリングポイント①、ミズナラエリアの斜面をセンブリのモニタリングポイント②として継続的に観察することに。
- 東京都環境保全看板近く、リンドウ坂のモニタリングポイント②のツルリンドウの少し下、左手斜面のイチヤクソウは周囲に囲いすることで鹿の食害防止に効果があるのか？だが、昨年からは自生株数に変わりがなく順調に生育している。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部